

整備の基本方針

整備テーマ

みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと

育む ～大切に守り伝えていく郷土の遺跡
貴重な遺跡と自然を守り次世代へと継承していくために、みんなで育む意識を醸成します。

感じる ～縄文人の暮らしに思いをはせる空間
下布田遺跡に関連する歴史学習と体感の場をつくり、縄文人の暮らしに思いをはせる機会を提供します。

発見する ～縄文から未来を見つめる「温故知新」の場
創意工夫による活動や調布の魅力発信、交流を深めるイベント開催など、多様な学びと発見につながる史跡公園とします。

縄文のふるさと ～みんなでつくる史跡公園
誰もが心安らぎ、何度も訪れたくなるくつろぎのある公園とします。

基本方針

- 1 史跡の確実な保存**
地下にある遺構や遺物を保存するために、盛土や樹木の整理等を行います。
- 2 縄文時代の生活技術と精神世界を表現する**
方形配石遺構等を復元し解説します。体験学習により縄文の暮らしと精神世界を伝えます。
- 3 自然環境を活かした憩いの空間**
日常的な自然散策等に利用しやすい、住宅地の中の貴重な緑地として公開します。
- 4 来園者の利便性向上と体験型活動の充実**
史跡公園の見学や体験学習等に必要な施設を設置し、来園者の利便性向上を図ります。
- 5 市民参加による管理運営体制づくり**
市民や各種団体の参加を促し、協働による管理運営体制を構築します。

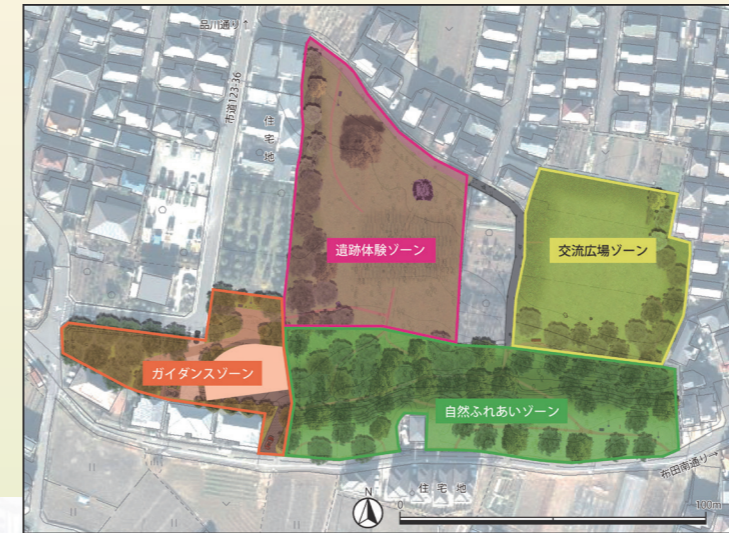


史跡下布田遺跡整備イメージスケッチ

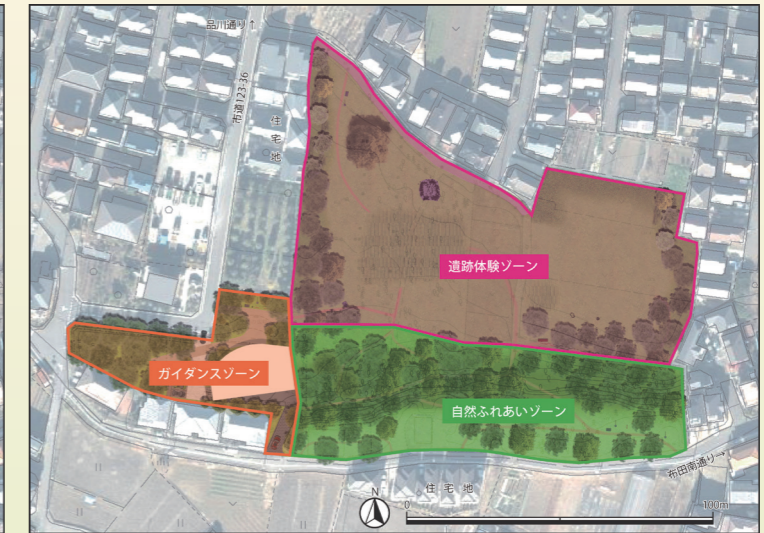
整備ゾーニング

立川段丘上を「遺跡体験ゾーン」、崖線と段丘下の低地部を「自然ふれあいゾーン」、現在郷土博物館分室がある史跡指定地の西に隣接する地区を「ガイダンスゾーン」に設定します。

また、史跡中央や南側に未公有化の土地があることから、短期と中期にわけて段階的に整備を進めます。このため、短期整備が完了し開園する際、遺跡体験ゾーンの東半分は、保護盛土と植栽を主とした整備による暫定公開の「交流広場ゾーン」とします。



短期整備（公有化完了まで）



中期整備（公有化完了後）

整備ゾーニングの考え方	
短期整備（公有化完了まで）	中期整備（公有化完了後）
遺跡体験ゾーン 歴史学習の場、体験学習の場として公開する。 方形配石遺構や石棒集積遺構を復元展示し、遺物集中域を平面的に表示する。	遺跡体験ゾーン 歴史学習の場、体験学習の場として公開し、市民が憩えるオープンスペース、あるいはイベント開催等、多目的に活用する。
交流広場ゾーン 市民が憩えるオープンスペース、イベント等の多目的広場として活用できるよう整備。 (保護盛土と修景植栽)	交流広場ゾーンの墓域の復元展示、遺物集中域の平面表示を行う。 段丘上の東側（高位面）と、西側（低位面）の連続した広がりを実現する。
自然ふれあいゾーン 布田崖線の良好な樹林環境を維持管理しながら利用を図るゾーン。	自然ふれあいゾーン 左記の状況に加えて、水場利用の調査成果を説明板等で補足する。
ガイダンスゾーン 史跡の維持管理や活用事業の拠点となる、ガイダンス施設を設置する史跡公園の見学起点となる主導入部。	